

助成事業実施報告書

団体名 認定 特定非営利活動法人

おおいた成年後見権利擁護支援センター

代表者・役職名 氏名 理事長 吉田 明美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

真如苑 こども食堂 支援助成

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

1.バトンカフェ(対象:0歳~120歳) 毎月第2日曜日10時~13時まで開催

目的・内容:子ども食堂を兼ねた、権利擁護と成年後見制度の啓発普及と要支援者の早期発見、早期対応のためと、障がいの有無や年齢を問わず、誰でも集えて、思いやりのある温かな空間で、穏やかに笑顔で過ごせる居場所と気心の知れた仲間と一緒に同じ食べ物を食べること(カレー)の提供を実施。

貴団体の助成金活用により、エアードッグと顔認証で検温できるサーモ検温器の購入し、感染対策を図りました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

貴団体の助成金活用により、エアードッグと顔認証で検温できるサーモ検温器を購入し、感染対策を図ることで、コロナ感染者等を出すことはありませんでした。

バトンカフェの参加者は、エアードッグと検温器の利用により、安心感を持って参加することができたようです。コロナ感染者が増加しても、参加者数に影響することなく、未開催もなく経過しています。

カレーはお持ち帰りいただいておりますが、「ためになるお話で、権利擁護と成年後見制度の啓発普及がすみ、成年後見制度の活用や消費者被害等の問題解決など、要支援者の早期発見、早期対応をおこなうことができました。同時に、障がいの有無や年齢を問わず、誰でも集えて、思いやりのある温かな空間で、穏やかに笑顔で、気心の知れた仲間と一緒に過ごせる居場所は、参加者の「ここに来るのが楽しみ」、「やっと人間と喋れた」「子どもに逢えると元気がもらえる」などの言葉が聞かれ、一人暮らしの方にとっては、貴重な居場所になっているようです。また、子どもたちは、笑顔で高齢者に資料を渡してあげたりして、人に対する思いやりの心が育っているように感じます。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

バトンカフェの目的は、子ども食堂を兼ねた、権利擁護と成年後見制度の啓発普及と要支援者の早期発見、早期対応のためと、地域住民がお互い、温かな思いやりを持って、孤立することなくみんなと一緒に、自分らしく暮らすことができることを目指して活動をしています。金銭的には大変ですが、継続していくことが重要と考えています。そのためには、これまで以上に協力者や参加者、仲間を増やしていく、方法を考えていかなければならないと思っています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

バトンカフェ写真



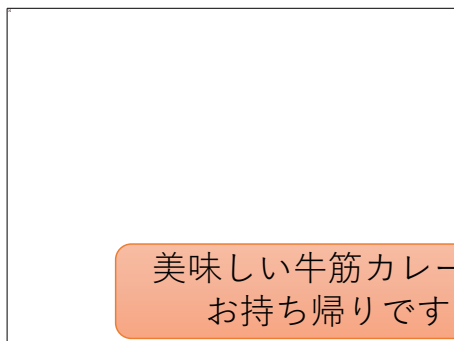
ためになるお話「防災教室」



非接触検温器



笑いヨガ



美味しい牛筋カレーはお持ち帰りです



エアードッグ

